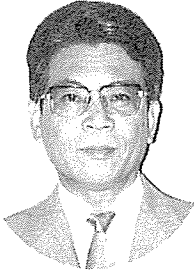


魅力ある地質調査業を目指して



東北地質調査業協会

副理事長 大久保 彪

一般に企業あるいは業界にとって、一つの発展の区切り（ライフサイクル）は30年といわれておりますが、地質調査業もその誕生から既に30年以上を経過し、今や成熟の域に来ているといえます。21世紀に向けていっそうの成長発展を遂げるために

は、昨今の社会・経済の急激な発展と技術の高度化、施工法の進歩、さらには国土有効利用問題、資源エネルギー問題など、激しく変化する地質調査業をとりまく環境と発注者の多様なニーズに対応していけるように、業としての新たな戦略的展開が必要となってきました。

この時にあたり、われわれの上部団体である社団法人全国地質業協会連合会から、このたび『地質調査業の経営戦略化ビジョンー地球時代の新しい知識産業を目指してー』が発行されました。これは、地質調査業の置かれている現状を分析し、今後の予想される時代のなかでこの業の目指すべきあり方を示す指針として作成されたものです。

このビジョンのなかで地質調査業は、その産業特性として、ハード・ソフト一体型産業（現場作業などーハード部分ーと、解析、判定業務などーソフト部分ーを併せ持つ産業）であり、かつ、知的サービス産業（地質、土質、基礎地盤、地下水等についての専門的コンサルタント業）であることが、大きな特徴として挙げられています。そして今後、新しい知識産業としてのアイデンティティを確立するために、他の業にないこのプラスの特徴をより進展させることが大事であり、ハード、ソフト両面の技術向上・開発と両部門間の新たな調和、理学的センスと工学的センスのさらなる融合、情報化社会への積極的対応などに、いっそう力を入れていくことが重要とされています。

東北の地質調査業界においても、このビジョンで提言されている戦略的な発想を、各企業の特性や地域のニーズに合った形で考え、経営に導入していく必要があると思います。また、業界団体である協会のあり方としても、会員各企業の経営体としての健全性の向上とともに、優秀な人材の確保と育成、専門技術者集団としての社会的地位の向上など、魅力ある地質調査業の確立を目指した新たな展開をはかるべき時期に来ていると思います。